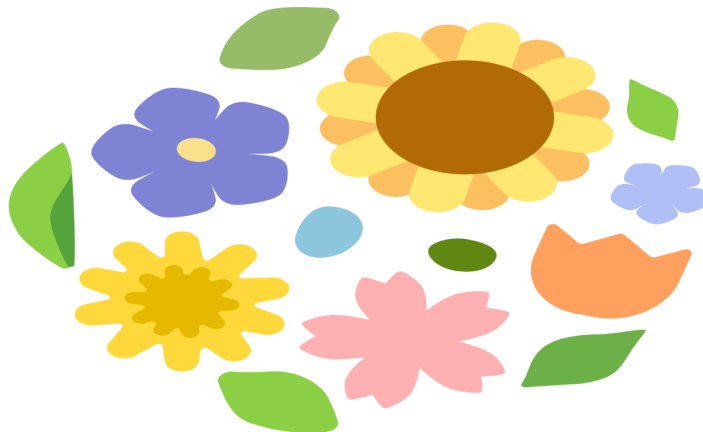




牧の原ゆめいろ 保育園

M A K I N O H A R A Y Ū M E I R O H O I K Ū E N

牧の原ゆめいろ保育園は令和6年度4月より民間移管で新たに開園した園です。これまでの牧野原保育園の良さ、社会福祉法人愛名の思い、両方を取り入れながら子どもたちや保護者、地域の方に愛される園を目指します。

当園は子どもの「自分からやる意欲」＝「主体性」を大切にしており、時間にゆとりを持ち過ごすことで、一人ひとりのペースに合わせた生活を送ることができます。子どもたちが充実した生活を送りながら真剣に遊び込み、自然と異年齢で関わるができる環境を創り上げていきます。

園の概要

経営主体	社会福祉法人 愛名
理事長	日比 勇三
園長	日比 勇三
所在地	〒465-0072 名古屋市名東区牧の原一丁目1303
施設の種類	保育所
名称	牧の原ゆめいろ保育園
電話番号	052-715-7522
敷地面積	1,323.09㎡
園庭	693㎡
構造	鉄筋コンクリート造
述べ床面積	581.37㎡
定員	100名
	ちゅうりっぷ組(0,1歳児) 12名
	たんぽぽ組 (2歳児) 12名
	すみれ組 (3歳児) 18名
	さくら組 (4歳児) 18名
	ひまわり組 (5歳児) 18名

《わたしたちの環境》

☆遊びが発展できる環境—継続できる場所

子どもの遊び=学び=育ち。人は0歳から遊び、学び、そして育ちを積み上げていきます。子どもの遊びは一度きりではなく日々継続されているものです。牧の原ゆめいろ保育園では自分で遊びを選択できるコーナー保育を取り入れています。いつも当たり前を選択できる環境があることで「昨日の続き」が保障され、夢中になって遊ぶ経験へと繋がり、遊びが発展していきます。

☆試行錯誤し、挑戦できる環境—失敗できる場所

人生の中では失敗や問題はつきものです。人生を生き抜くためには、失敗から立ち直る力を持つことが不可欠になります。机に座らせて保育者の指示どおり制作をすれば、失敗や試行錯誤の体験はできません。失敗や試行錯誤ができるように挑戦的で探求する課題に子どもが取り組める環境を用意し、保育者は見守っています。

☆子どもが安心できる環境—ほっとできる場所

子どもは1日中元気に走り回っているようなイメージがありますが、子どもにも「ちょっと休憩」「ほっと一息」という時間は必要です。ぼーっと座っているように見えても他の子の遊びを見て、「何しているのかな」「何して遊ぼうかな?」と考えていたりします。自分なりに落ち着くことができる場所を見つけられるように保育者からは見えるけれど友だちからは見えないスペースを作るなど工夫した環境設定を心がけています。

《わたしたちの保育》

☆見守り、気持ちに応答する—ただ見守るだけでなく…

子どもの育ちには大人が子どものことを見守りそして応答することが大切です。子どもが遊びに夢中になっているとき、「何をしているの?」と声をかけたりしていませんか? 大人がむやみに関わると遊びへの集中が途切れ、子どもの世界が壊れてしまいます。一人ひとりの子どもの行動を「この子のその行動は、どんな気持ちの表れなんだろう?」と考えながら見守る。そして子どもがこっちを向いたら、必要に応じて声をかけるようにしています。

☆ていねいすぎない援助—何でも手伝ったり関わったりするのは簡単だけど…

ケンカも子どもが成長する貴重な機会。「仲良くあそぼうね」…ケンカの際、つい言ってしまうがちな言葉です。しかしそれを続けてしまうと、徐々に衝突や失敗を恐れる消極的な子どもになってしまいます。自分の力で解決方法を見つけ乗り越えられるように、大人は口出しせずにそっと見守り、手を出しすぎないようにしています。手が出る、噛みつくなど行動がエスカレートした時には援助が必要ですが、「〇〇くんも〇〇くんもおもちゃが欲しかったんだね。でも叩くと痛いから、『かして』って言葉で言ってみよう?」など、一方の肩を持つ、叱るのではなく、解決するヒントを教え、てあげるように気を付けています。

☆適切な言葉がけ—子どもに必要な「言葉」って…

「ダメだよ」「やめて」—子どもの行動を制止し、考えることをやめさせてしまう言葉「がんばれ」「もっとできる」—子どもに大人の期待を押し付け、無理をさせてしまう言葉
子どもたちが自分で考えて行動できること。これは成長の大きな目標のひとつ。大人の言葉一つで子どもは行動を変えてしまうこともあります。危険な時などこうした言葉を使わなくてはならない時もありますが、子どもの育ちを妨げてしまわないよう言葉に気を付けて声かけをしています。

リトミック

専門の講師を招き、音楽を通して感性や表現力を育てる活動を0歳児から月2回行っています。

運動遊び

公認指導の免許を持った保育者がそのクラスの子どもに合った運動遊びを月2回行っています。

食育

0歳児クラスからクッキングや食に関するお話などを行い、食への興味関心を高めています。

キンダーカウンセラー

外部の臨床心理士を毎月招き、クラスの巡回や予約制の個別カウンセリング(保護者対象)を行っています。

なかよし給食

子どもアレルギー食材の大半を占める卵・乳を除去した給食を取り入れています。